

病院だより

No.10
市立豊中病院ニュース
TOYONAKA MUNICIPAL HOSPITAL

基本理念

豊中市の地域中核病院として
『心温かな信頼される医療』を提供します。

基本方針

- 1) 患者さんの立場に立った心温かな医療をめざします。
- 2) 地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供します。
- 3) 医療機関との連携を密にし、市民の健康を守るために努力します。
- 4) 高齢化社会に対応する医療を推進します。
- 5) 医療従事者の教育・研修の充実を図ります。

市立豊中病院では、平成20年11月15日(土) 阪急豊中駅前「ゆやホール」において「第6回がん医療公開講座」を開催しました。この公開講座は、豊中市民をはじめ地域にお住まいの方々を対象に、がん医療に関する最新の情報を提供し、がんに対する正しい知識を身につけていただくことを目的に年に一度開催しています。今年「子宮がん」をテーマとして、大阪大学大学院医学系研究科の藤田征巳先生を講師としてお招きし、最新の予防・診断・治療について講演をおこないました。

がん医療の最新情報をご提供します。



子宮ガン 予防・診断・治療の最前線から

大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学教室講師 藤田 征巳

子宮がんの罹患率は横ばい、死亡率は減少傾向



悪性新生物、すなわち「がん」は1981年に死亡原因の第1位となりました。他の死亡原因である脳血管疾患や心疾患がある時期をピークに減少しているのに対し、がんはその後も一貫して増加しています。

女性のがんに関して、部位別の罹患数の推移をみると、近年大腸がんや乳がんが急激に増加しています。胃がん・大腸がん・乳がん

の3つのがんがまもなく最も多くなっており、今回のテーマである「子宮がん」は微増となっています。

死亡数についても、胃がん・大腸がん・肺がんが増えていますが、子宮がんについては、これらのがんと異なり罹患数と死亡数に開きがあることから、がんになっても助かる方が比較的多く、予後の良いがんと言われています。

子宮頸がんの発生と診断



子宮がんには、「子宮頸がん」と「子宮体がん」の2種類があります。

「子宮頸がん」は、おもに子宮頸部の扁平上皮から発生してくる扁平上皮がんの一種です。好発年齢は40歳代となっていますが、最近では若年者での頻度が増加しており、若年化が進んでいます。子宮頸がんの若年化は、日本だけではなく世界的にも問題となっています。

がんの発生因子として、発がん性のヒトパピローマウイルス-HPV-への感染ががんの発生に深く関与していることが明らかになっています。通常、感染からがんが発生するまでには数年から数十年かかると思われます。

子宮頸がんの場合、がんになる前の段階である前がん病変が長期継続するため、早い段階で発見し、診断・治療することができます。

子宮がんには2種類ある



がんの患者さまやご家族の皆様が、ご自分らしく、より良い生活をしていくためのサポートを行います。がんに関する疑問、不安や悩みなどご相談下さい。



がん相談支援センターとは

看護師、ソーシャルワーカー、その他のスタッフが相談をお受けいたします。内容に応じて医師、薬剤師、臨床心理士、栄養士など専門スタッフと連携し、患者さま、ご家族の疑問、不安、悩みを解決するお手伝いをいたします。

こんなときは一人で悩まず、ご相談ください。



- 相談予約受け
月曜日～金曜日(土・日・祝日を除く)
9:00～16:30
- 相談費用 無料
- 対象
がんに関する疑問、不安や悩みをお持ちの方

- 面談は予約制です
- 面談時間は30分程度とさせていただきます
- 個人情報厳守いたします。



〈問い合わせ先〉

〒560-8565 豊中市柴原町4丁目14番1号 TEL (06)6843-0101 FAX (06)6858-3531

(ホームページ)http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/

編集・発行:市立豊中病院広報委員会(病院管理課) 発行月:平成20年(2008年)12月